

モモのカイガラムシ類情報第1号

(修正版：平成26年7月1日)

平成23年4月28日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

防除適期はクワシロカイガラムシが5月19日～23日で
ウメシロカイガラムシが5月15日～20日です。
防除適期を外さないように注意しましょう。

1 モモのカイガラムシ類について

モモを加害する主なカイガラムシ類は、クワシロカイガラムシ（以下クワシロ）とウメシロカイガラムシ（以下ウメシロ）で、2種の形態はよく似ています。雌成虫は枝幹などに寄生して越冬します（図1左・中）。例年4月下旬頃から産卵が始まりますが、卵や雌成虫は殻に覆われて薬液が虫体に付着しにくいため、この時期の農薬散布は効果的ではありません。農薬による防除効果が高い時期は、殻を被っていないふ化幼虫（図1右）の発生ピーク時期です。この時期を逃すと防除効果は急激に低下します。また、気温によりふ化幼虫の発生ピーク時期が変動するので、年により防除適期は数日前後します。



越冬状況



殻に覆われている雌成虫



ふ化幼虫（体長0.25mm）

図1 モモに寄生するウメシロカイガラムシ

2 クワシロとウメシロの分布状況

モモ主要産地における2種の発生分布調査を実施した結果、小牧市、春日井市、豊田市、豊橋市ではクワシロが主に発生しているほ場が多く、犬山市、扶桑町ではクワシロとウメシロが混在しているほ場が多いことが分かりました。

3 クワシロとウメシロの識別方法

防除適期である第1世代ふ化幼虫の発生ピーク時期は、ウメシロの方がクワシロより3～4日早くなります。適期に防除するためには、ほ場で発生しているカイガラムシ類の種類を把握することが重要です。識別する場合は、ほ場内から雌成虫を採取し、殻を外し、^{でんぼん}臀板周縁（腹部末端）の先端分岐の形を光学顕微鏡で確認します（図2）。

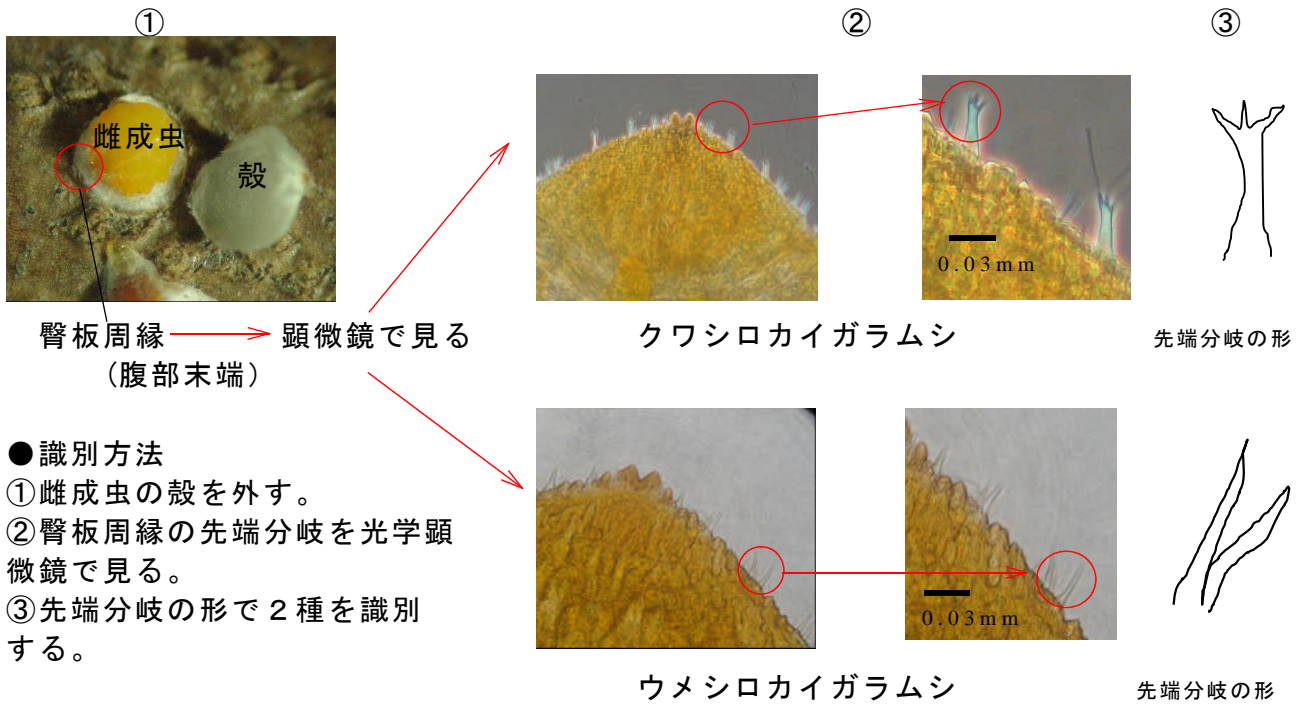


図2 クワシロカイガラムシとウメシロカイガラムシの識別方法

4 防除適期予測

有効積算温度を利用してクワシロ及びウメシロ第1世代ふ化幼虫の発生ピーク日を予測すると、クワシロは5月19日～23日で、ウメシロは5月15日～20日です（下表）。

本年は2月下旬から3月中旬にかけて気温が昨年より低く推移しており、第1世代ふ化幼虫の発生ピーク日は、名古屋市を除き、昨年より1日から5日遅いと予測します（下表）。

クワシロカイガラムシ及びウメシロカイガラムシの第1世代ふ化幼虫発生ピーク日予測

	クワシロカイガラムシ						ウメシロカイガラムシ					
	東海	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	東海	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋
本年予測	5/19	5/19	5/21	5/22	5/20	5/23	5/15	5/16	5/17	5/19	5/17	5/20
(前年)	5/17	5/19	5/17	5/20	5/20	5/20	5/13	5/16	5/12	5/17	5/16	5/17
前年差	2日遅	なし	4日遅	2日遅	なし	3日遅	2日遅	なし	5日遅	2日遅	1日遅	3日遅

注) 本年予測月日は、4月25日までの気温については本年実測値を、それ以降は平年値（豊橋のみ前年値）を用いて計算。

前年については、前年気温の実測値を用いて計算。

5 防除

ふ化幼虫の発生時期が比較的そろそろ第1世代のふ化幼虫発生ピーク時期が防除適期です。それぞれのほ場で主に発生しているカイガラムシ類を対象に上表から防除適期を予想し、薬剤防除しましょう。なお、アプロード水和剤は遅効性ですが、残効性に優れているため、発生ピーク予測日より2～3日早めに散布しましょう。